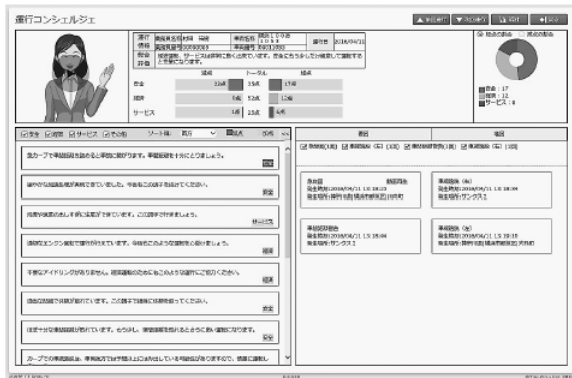


## トランストロン■クラウド型サービス

# 運行支援をレベルアップ

## コンシェルジュ 音声でアドバイス

女性キャラクターがアドバイスする「運行コンシェルジュ」の画面



富士通グループのトランストロン（大岡信一社長、横浜市港北区）は、ネットワーク型デジタルタコグラフ「DTS-D1シリーズ」用のクラウド型運行支援サービス「ITP-Web Service V2」をレベルアップし、7月25日から提供を開始した。目玉機能は「運行コンシェルジュ」で、速度や急加減速といった各種運行データを複合的に分析、帰庫したドライバーに対し、自動で質の高い運転指導を行えるようにした。（吉田英行）

### 複合的にデータ分析

富士通のネットワーク型サービスが評価されている。デジタルタコは、2010年の発売からの累計が3万台に上る。クラウドのメリットを生かし、ユーザーの意見を逐一反映して定期的なレベルアップしている点や、導入後の充実したアフター

などの運行データを、それぞれ単一で分析するのではなく、組み合わせる分析するのが特徴。

サービスの画面上に女性キャラクターが登場。音声により一日の運行を振り返り、分かりやすくアドバイスする。「安全」「経済」「サービス」の三つの視点から点数を付け、運転に対する総合評価と詳細評価が表示される。また、1運行で3件まで、特に危険な運転の動画を自動で選び再生。DR一体型で特に強みを持つ富士通デジタルタコならではの特長だ。

データを組み合わせること、新たな視点での指導が可能になる。例えば、「速度超過」「急加減速」「車線逸脱」に該当する場合は、「高速走行から急減速して車線変更するのは危険」と注意を促す。「長時間運転」「車間距離」「急加減速」に該当する場合は、「運転に疲れると判断が鈍くなり、十分な車間距離を確保しましょう」といったア

ドバイスをする。

運行の分析は帰庫後に自動で行われるため、日報や動画の確認といった運行管理者の負担を軽減しながら、質の高い指導が行える。管理者による指導のワンパターンの防止、指導の標準化も図れる。

良い運転は、褒める工夫をしている点も大きな特徴。運行コンシェルジュを見ながら、ドライバーと管理者がコミュニケーションを深めることで、モチベーションアップにもつながる。クラウド型は機能追加に

対応しやすいため、更なるレベルアップも計画する。今後は1運行ごとの分析に加え、時系列での分析や統計機能なども拡充していく予定。運転の癖の把握や、曜日別や時間帯別の特徴がつかめるようになる。